

---

# 遠賀町ひとにやさしい福祉のまちづくり整備基本計画 概要版

だれもが安心・快適にまちなかを活動できるユニバーサルデザインのまちづくり

平成16年3月

遠賀町

---

## 概要版目次

|                                           |    |
|-------------------------------------------|----|
| 1. 整備基本計画策定の目的                            | 1  |
| 2. ひとにやさしい福祉のまちづくりの課題                     | 2  |
| 3. ひとにやさしい福祉のまちづくりの<br>基本理念と基本方針          | 4  |
| 4. ひとにやさしい福祉のまちづくりの整備の考え方                 |    |
| 4-1. 「まちづくり施設」の整備の考え方                     | 5  |
| 4-2. ひとにやさしい福祉のまちづくりのソフトな取り組みに<br>関する配慮事項 | 15 |
| 5. ひとにやさしい福祉のまちづくりの<br>整備のすすめ方            | 16 |
| 5-1. 整備の広がり                               | 16 |
| 5-2. 整備のネットワーク                            | 17 |
| 6. モデル整備地区の整備計画                           | 18 |
| 6-1. モデル整備地区の設定                           | 18 |
| 6-2. モデル整備地区の整備目標・整備方針                    | 23 |
| 6-3. モデル整備地区の整備計画                         | 24 |
| 7. 計画の実現に向けて                              | 28 |

# 1. 整備基本計画策定の目的

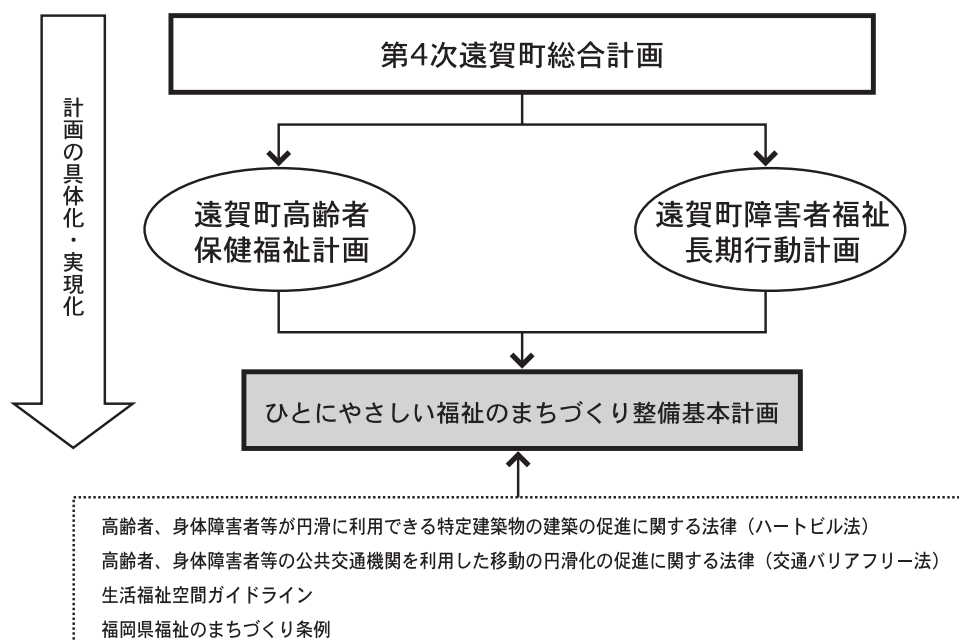
近年の少子・高齢化の傾向は遠賀町においても例外ではなく、高齢化率は18.9%（平成15年3月末市内資料）に達し、年々増加傾向にある。また、若年人口が減少傾向にあることから、今後高齢化率はさらに高くなることが予想される。そのため、遠賀町に長年生活してきた高齢者や障害者をはじめ、すべての人が安心して生活を送れるまちづくりをすすめることが課題となっている。

このような中、国は平成6年に「高齢者、身体障害者等が円滑に利用できる特定建築物の建築の促進に関する法律（ハートビル法）」を、平成8年には「生活福祉空間ガイドライン」を、平成12年には「高齢者、身体障害者等の公共交通機関を利用した移動の円滑化の促進に関する法律（交通バリアフリー法）」を制定し、平成15年からは特定建築物の範囲の拡大や利用円滑化基準への適合義務化を目的にハートビル法を改正し、街全体から住宅に至るまでをユニバーサルデザイン※<sup>1</sup>の視点に基づいて整備することとしている。

福岡県においても平成10年4月から「福岡県福祉のまちづくり条例」を施行し、「福岡県福祉のまちづくり支援事業」等により、高齢者や障害者をはじめすべての県民が社会、文化、経済その他の分野の活動に自らの意志で参加できる社会を形成するため、福祉のまちづくりの推進を図っている。

本計画では、遠賀町においてもユニバーサルデザインのまちづくりにより、住民が社会参加でき、自立して快適に暮らせる生活環境の確保が必要であることから、遠賀町における今後のひとにやさしい福祉のまちづくりの取り組みのあり方やすすめ方についてまとめ、住民と一体となって継続的に取り組むことを目的として策定するものである。

## ■整備基本計画の位置づけ



### ※1 ユニバーサルデザイン：

年齢、性別、身体、言語など、人々が持つ様々な特性や違いを超えて、はじめから、できるだけすべての人が利用しやすい、すべての人に配慮した環境、建物、製品等のデザインをしていこうという考え方。

## 2.ひとにやさしい福祉のまちづくりの課題

遠賀町のひとにやさしい福祉のまちづくりの課題は、以下のとおりである。

### 福祉のまちづくりに関する動向

#### ■国や県

○ハートビル法や交通バリアフリー法等により、街全体のバリアフリー化を推進。

#### ■遠賀町

○福祉のまちづくりに関しては、総合計画では「人々が安心して快適に暮らすまち」を基本理念に、高齢者保健福祉計画書では「住みよいまちづくりの推進」を、障害者福祉長期行動計画では「生活環境の整備」を位置づけている。

### 人口・世帯等の現況

#### ■人口・世帯

○人口：19,792人、世帯：6,754世帯（平成15年3月末現在）。

○最も人口が多い地区は、田園北・田園南の2,730人であり、次いで松の本1,973人。人口密度では、田園北・田園南が111.4人／haで最も高く、次いで遠賀川104.9人／ha。

#### ■高齢者・障害者・子ども

○高齢者数が最も多い行政区は、別府・千代丸で367人、高齢化率では新町が31.7%で最も高く、高齢化の様子は地区により異なる。

○障害者については、身体障害者が748人、知的障害者が97人（平成15年度）となっている。

○全国や県と比較して低い出生率。児童数も年々減少している。

### まちづくり施設の現況

#### ■建築物

○役場や中央公民館、図書館等の公共的建築物は、県道浜口遠賀線沿いのほぼ町の中央部に集積している。

○遠賀総合運動公園や遠賀体育センターなどのスポーツ・健康施設はJR遠賀川駅南側に集積している。

○ふれあいの里、在宅介護支援センターなど福祉施設は町の南部に集積している。

○商業施設や金融機関等は、県道浜口遠賀線や県道岡垣遠賀線沿いに主に立地している。

#### ■交通機関の施設

○平成14年度のJR遠賀川駅の利用者は、7,134人／日。

○バス路線は全部で5路線あり、3路線がJR遠賀川駅を起点に運行。町の南部は1路線のみ。

○ふれあいの里への送迎を目的とした福祉バスを5路線運行している。

#### ■道路

○国道3号をはじめとして約490路線の国・県・町道が走る。

○町内の道路は、整備区間が部分的となっている。

○JR遠賀川駅前広場には、特に朝夕はバスや客待ちのタクシー、送迎の自家用車等が頻繁に出入りしている。

## ■公園

- 63箇所の公園・広場を整備しており、全公園の面積合計は27.2ha。
- 緑化重点地区整備基本計画により、今古賀・新町地区で「水辺のふれあい、都会のオアシス、リラクゼーション、みんなが笑顔で元気にふれあえるオープンスペース」をテーマとした都市計画公園の整備をすすめている。

## 主要なまちづくり施設のバリアフリー状況

### ■建築物

- 車いす使用者が円滑に出入口を通行できない、車いすやベビーカーでは2階に行くことができない、子ども連れではトイレを利用しにくい、視覚障害者に配慮した設備が不足している等の課題がある。

### ■交通機関の施設

- 部分的にはバリアフリー化に取り組まれているものの、出入口に大きな段差、線路をまたぐ階段等、主に移動に関する課題が残されている状況。
- 町の中を行き来する移動手段が満足に整備されていない等の課題がある。

### ■道路

- 町の中心部の県道には歩道は設置されているが、部分的に幅員が狭い、こう配がある、視覚障害者誘導用ブロックが判別しづらい等の課題がある。
- 歩道に乗り上げ駐車するなどの、住民のマナー面で課題がある。

### ■公園

- 出入口に段差がある、車いす使用者や視覚障害者等に配慮した設備が不足している等の課題がある。



## ひとにやさしい福祉のまちづくりの課題

### バリアフリー化された建築物等を増やすこと

- ・建築物、交通機関の施設、公園等をだれもが利用しやすいように、出入口・廊下・トイレ・階段等をバリアフリー化することが必要である。

### バリアフリー化された移動経路を増やすこと

- ・だれもが町のなかを安全に行き来できるように、歩道をバリアフリー化することが必要である。
- ・巡回バス等の移動手段の充実についても検討が必要である。

### バリアフリーに関する取り組みができる「人」を増やすこと

- ・住民一人ひとりが福祉のまちづくりについて理解し、行動できることが必要である。

### 3.ひとにやさしい福祉のまちづくりの基本理念と基本方針

遠賀町の現況と課題の整理を踏まえ、今後の遠賀町のひとにやさしい福祉のまちづくりの基本理念と基本方針を次のように定める。

#### 【基本理念】

**だれもが安心・快適にまちなかを活動できる  
ユニバーサルデザインのまちづくり**

#### 【基本方針】

##### 1. 「入れる・動ける・使える」施設づくり

高齢者や障害者、子ども連れの人などだれもが安心して快適に施設を利用するには、敷地や建物出入口、施設内の移動経路、トイレ等の設備に至るまで、連続して整備されていることが重要である。

従って、建築物や交通機関の施設、公園等について、「入れる・動ける・使える」視点で整備・改善を図り、だれもが利用しやすい施設づくりをすすめる。

##### 2. 「移動しやすい」地域環境づくり

公共的建築物等を利用するには必ず移動が伴うことから、安全で快適な歩道、分かりやすい案内サイン、適切な視覚障害者の誘導システム、利用しやすい移動手段等の充実を図り、移動しやすい地域環境づくりをすすめる。

##### 3. だれもがやさしい心もち、行動できるまちづくり

ユニバーサルデザインによる施設づくりだけではなく、心づかいや人の手助けなどのちょっとしたことも安全で快適な環境づくりをすすめる重要な要素となる。

従って、ひとにやさしい福祉のまちづくりをすすめていくために、住民一人ひとりがやさしい心をもって、ユニバーサルデザインについて理解し、行動することができる環境づくりに努める。

## 4.ひとにやさしい福祉のまちづくりの整備の考え方

### 4-1.「まちづくり施設」の整備の考え方

まちづくり施設を整備（新設、大規模な改修）する際には、基本理念及び基本方針に基づき、また「福岡県福祉のまちづくり条例」の基準を踏まえ、すべての人が利用しやすいよう十分に配慮する必要がある。

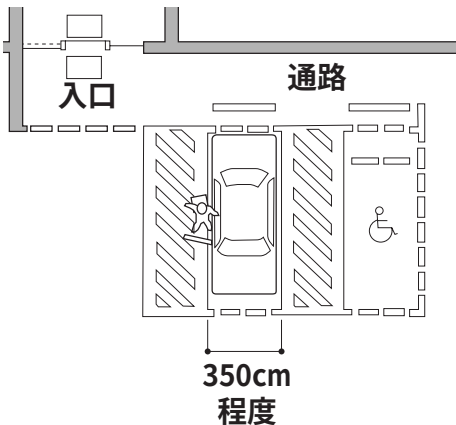
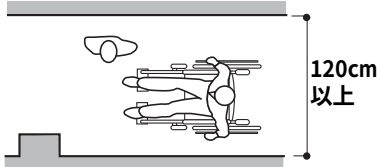
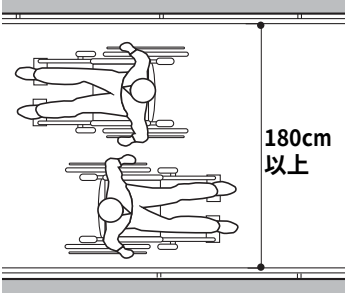
#### 4-1-1. 建築物の配慮事項

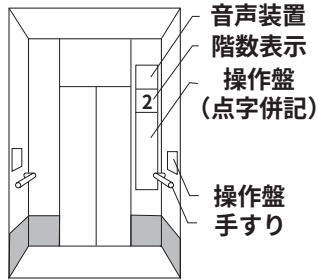
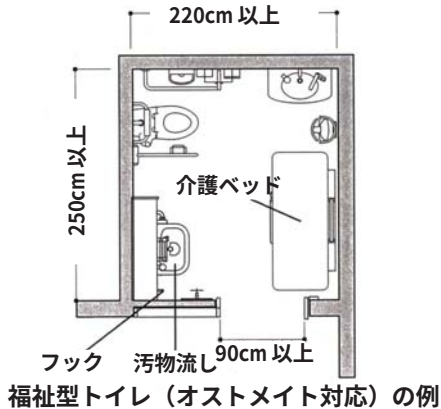
##### 基本的な考え方

- 公共的建築物や高齢者や障害者等の利用が多い民間建築物では、[道路→敷地出入口→（駐車場）→建物出入口]のアプローチ空間の整備・改善をすすめ、入りやすい施設づくりに努める。
- トイレや駐車場、エレベーター等を設置する際には、だれもが安心して利用できるよう配慮する。
- 施設内の様子が分かるよう、案内サインの設置をすすめる。

##### 個別の配慮事項

|         | 配慮すること                                                                                                                                          | イメージ図等                                                                                                      |
|---------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| アプローチ空間 | <ul style="list-style-type: none"><li>・歩道と敷地の間に段差を設けない。</li><li>・歩道と敷地の間に高低差がある場合は、敷地出入口が高低差の少ない位置になるよう計画段階で十分配慮する。</li></ul>                   |  <p>道路と敷地の間に段差を設けない</p> |
|         | <ul style="list-style-type: none"><li>・敷地出入口から建物出入口まで、視覚障害者誘導用ブロックを設置し、視覚障害者を安全に誘導する。</li><li>・アプローチ空間に階段など、やむを得ず段差が生じる場合は、スロープを併設する。</li></ul> |  <p>視覚障害者誘導用ブロックで誘導</p> |

|         | 配慮すること                                                                                                                                                                                                                                                             | イメージ図等                                                                                                                                                                                                                                                        |
|---------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| アプローチ空間 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・駐車場を整備する場合は、建物出入口付近に車いす使用者等が優先的に利用できる駐車場（幅：350cm 程度）を設ける。</li> <li>・駐車場から建物出入口まで安全に通行できるよう、位置や通路に配慮する。</li> <li>・通路や駐車場には雨等を考慮して屋根又は庇を設置する。</li> <li>・建物出入口は可能な限り、自動ドア、もしくは手動の引き戸とする。</li> <li>・建物出入口には段差を設けない。</li> </ul> |  <p>350cm<br/>程度</p> <p>建物出入口に近い位置に設置</p>  <p>自動ドア</p>                                   |
| 廊下等     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・歩行者と車いす使用者が安心してすれ違える幅を確保する。</li> <li>・床の表面は滑りにくい仕上げとする。</li> <li>・廊下等の柱や壁の角は面取りや隅切りをし、消火器は壁に埋め込むなどの工夫を行う。</li> <li>・廊下等の形状や配置を可能な限り単純にし、分かりやすい経路とする。</li> </ul>                                                            |  <p>120cm<br/>以上</p> <p>歩行者と車いす使用者のすれ違い</p>  <p>180cm<br/>以上</p> <p>車いす使用者同士のすれ違い</p> |

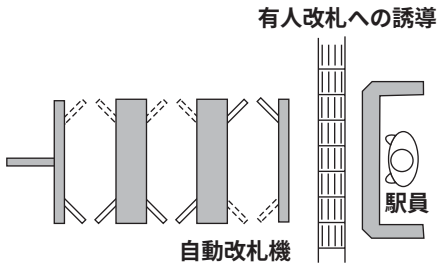
|        | 配慮すること                                                                                                                                                                                                                     | イメージ図等                                                                                                        |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| エレベーター | <ul style="list-style-type: none"> <li>・階段の利用が困難な高齢者や障害者等に配慮してエレベーターを設置する。</li> <li>・エレベーターは、建物内の分かりやすい位置に設置する。</li> <li>・車いす使用者や視覚障害者が円滑に操作できるよう、操作盤のつくりや音声案内を工夫する。</li> <li>・乗降場の操作ボタンの前には、視覚障害者誘導用ブロックを設置する。</li> </ul> |  <p>車いす使用者や視覚障害者に配慮した設備</p> |
| トイレ    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの住民が利用する公共的建築物や子ども、高齢者や障害者、妊産婦等の利用が多い民間建築物にトイレを設ける場合は、すべての人が気軽に使うことができるトイレを設ける。</li> <li>・トイレは建物内の分かりやすい位置に設け、トイレに至る廊下幅や段差等にも配慮する。</li> </ul>                                    |  <p>福祉型トイレ（オストメイト対応）の例</p> |
| トイレ    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育てバリアフリーをすすめるため、男性用トイレにもベビーベッド及びベビーチェアの設置をすすめる。</li> </ul>                                                                                                                        |  <p>ベビーベッドの例</p>          |
| その他の設備 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授乳室など子ども連れの利用に配慮した設備を設ける。</li> <li>・受付や記入台を設ける場合は、足元の空間を十分に確保し、車いすでの寄りつきに配慮する。</li> </ul>                                                                                          |  <p>授乳室のオムツ交換台</p>        |

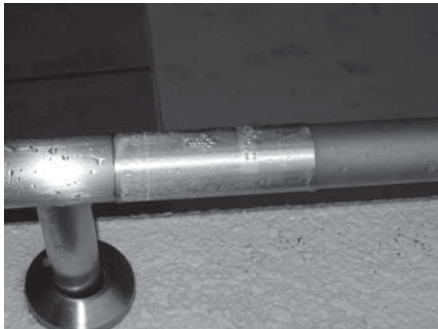
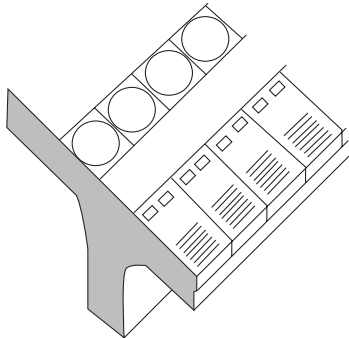
#### 4-1-2. 交通機関の施設の配慮事項

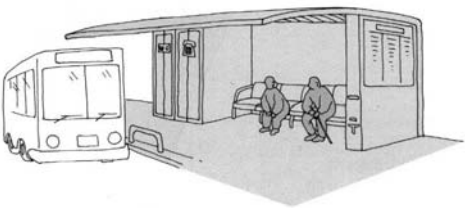
##### 基本的な考え方

- 駅舎やバス停など交通機関の施設へのアクセスが容易となるよう、施設周辺の整備・改善をすすめる。
- 施設内の移動をはじめ、車両への乗降が円滑にできるよう、連続した施設づくりをすすめる。

##### 個別の配慮事項

|            | 配慮すること                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | イメージ図等                                                                                                                                       |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| アプローチ空間    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・駅舎に円滑にアプローチできるよう、駅前広場と連続性のある整備をすすめる。</li> <li>・駅前広場から駅舎出入口まで、視覚障害者誘導用ブロックを設置し、視覚障害者を安全に誘導する。</li> <li>・アプローチ空間に階段など、やむを得ず段差が生じる場合は、スロープを併設する。</li> <li>・駐車場を整備する場合は、駅舎出入口付近に車いす使用者等が優先的に利用できる駐車場（幅：350cm程度）を設ける。</li> <li>・駐車場から駅舎出入口まで安全に通行できるよう、位置や通路に配慮する。</li> <li>・通路や駐車場には雨等を考慮して屋根又は庇を設置する。</li> </ul> |  <p>駅前広場の例</p>                                            |
| 駅舎出入口から改札口 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・駅舎出入口から改札口に至る経路の幅は十分に確保する。</li> <li>・床の表面は滑りにくい仕上げとする。</li> <li>・視覚障害者を安全に誘導するため、駅舎出入口から券売機・窓口・改札口に至る経路に視覚障害者誘導用ブロックを設置する。</li> </ul>                                                                                                                                                                         | <p>有人改札への誘導</p>  <p>自動改札機</p> <p>視覚障害者誘導用ブロックは連続して設置</p> |

|          | 配慮すること                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | イメージ図等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 改札口からホーム | <ul style="list-style-type: none"> <li>改札口は、車いす使用者等が円滑に利用できる幅を確保する。</li> <li>改札口からホームに至る経路に高低差がある場合は、エレベーターの設置をすすめる。</li> <li>エレベーターは、分かりやすい位置に設置する。</li> <li>エレベーターは、車いす使用者や視覚障害者が円滑に操作できるよう、操作盤のつくりや音声案内を工夫する。</li> <li>階段は傾斜をゆるやかにし、手すりや視覚障害者誘導用ブロックを設置する。</li> <li>階段の手すりには点字表示を設け、視覚障害者が行き先等を確認できるようにする。</li> <li>視覚障害者を安全に誘導するため、改札口からホームに至る経路に視覚障害者誘導用ブロックを設置する。</li> </ul> |  <p>ホームまでのエレベーターの例</p>  <p>手すりの点字表示の例</p>  <p>ホームの点状ブロック等</p> |
| トイレ      | <ul style="list-style-type: none"> <li>駅舎にトイレを設ける場合は、すべての人が気軽に使うことができるトイレを設ける。</li> <li>トイレは分かりやすい位置に設け、トイレに至る通路幅や段差等にも配慮する。</li> <li>子育てバリアフリーをすすめるため、男性用トイレにもベビーベッド及びベビーチェアの設置をすすめる。</li> </ul>                                                                                                                                                                                  |  <p>自動ドアスイッチ</p> <p>福祉型トイレの例</p>                                                                                                                                                                                                   |

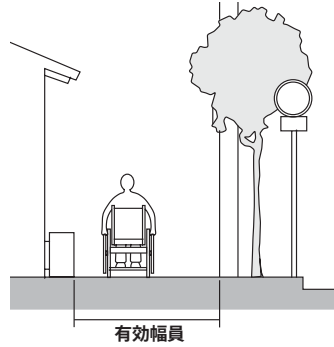
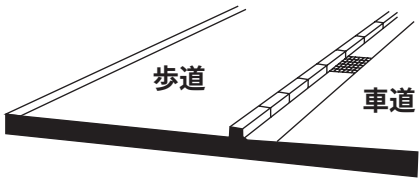
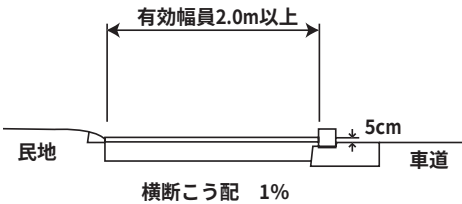
|          | 配慮すること                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | イメージ図等                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 案内サイン    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚障害者の誘導のため、必要に応じて音響・音声案内を設置する。</li> <li>・案内サインは、情報の表示面を大きくし、文字と背景のコントラストが強いものとする。</li> <li>・視覚障害者誘導用ブロックの他に、触知図や手すりによる案内等を充実させる。</li> <li>・聴覚障害者に配慮した視覚情報や文字情報を充実させる。</li> <li>・日本語による言語情報のうち、重要なものには英文やローマ字を併記する。</li> <li>・ピクトグラム（絵文字）による表現も有効であるため活用する。</li> </ul> |  <p>触知図</p>  <p>ピクトグラム（絵文字）</p>  <p>音声案内</p> |
| バスステーション | <ul style="list-style-type: none"> <li>・バスは住宅地とまちなかを結ぶ重要な移動手段であることから、主要なバスステーション（バスストップ）では、待ち時間を快適に過ごせるよう、上屋やベンチ、夜間照明等の設置をすすめる。</li> <li>・バスステーションは、バス待ち客だけでなく、歩行者や地域の人たちにも使いやすい憩いの場（交流ポケット）としても検討する。</li> </ul>                                                                                               |  <p>バスステーションの例</p>                                                                                                                                                                                               |

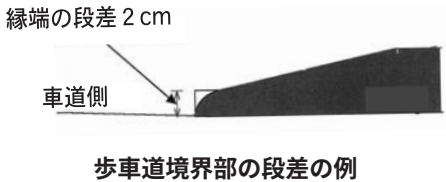
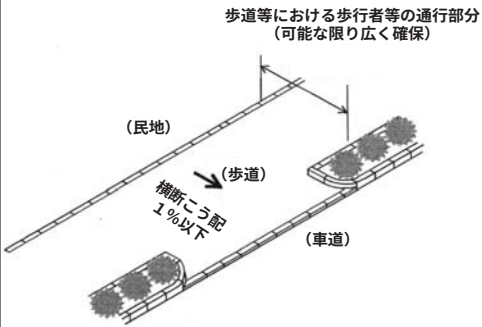
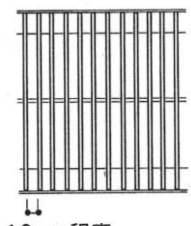
#### 4-1-3. 道路の配慮事項

##### 基本的な考え方

- だれもが安全かつ快適に移動できるよう、歩行空間ネットワークを充実させる。
- 新設道路については、歩行者の視点に立ち、安全面や快適性に十分配慮した歩道を整備する。
- 既設道路については、道路改修に合わせて、車両乗り入れ部等の改善を行う。
- 歩いて楽しい空間となるよう、植栽など景観にも配慮する。

##### 個別の配慮事項

|        | 配慮すること                                                                                                                                                                               | イメージ図等                                                                                                                                                                   |
|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 有効幅員   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・道路構造令に準じ、必要な歩道の有効幅員を確保する。</li> <li>・実際の幅員設定の際には、歩行者や自転車の交通状況や、高齢者や障害者等の利用状況等を十分に考慮する。</li> </ul>                                             |  <p>有効幅員</p> <p>有効幅員は 200cm 以上</p>                                                    |
| 歩車道の分離 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・道路幅員と交通量及び沿道の状況などを考慮しながら、原則として自動車交通と自転車・歩行者交通を分離する。</li> </ul>                                                                               |  <p>歩道</p> <p>車道</p> <p>歩車道分離の例</p>                                                  |
| 歩道の高さ  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・波打ち歩道とならないよう、歩道面が車道面より高く（5cmを標準）、縁石天端の高さが歩道面より高い歩道構造（セミフラット型）を基本とする。</li> <li>・ただし、沿道の状況等によりセミフラット型による整備が困難な場合は、状況に応じて歩道の高さを設定する。</li> </ul> |  <p>有効幅員2.0m以上</p> <p>5cm</p> <p>民地</p> <p>車道</p> <p>横断こう配 1%</p> <p>セミフラット構造の断面</p> |

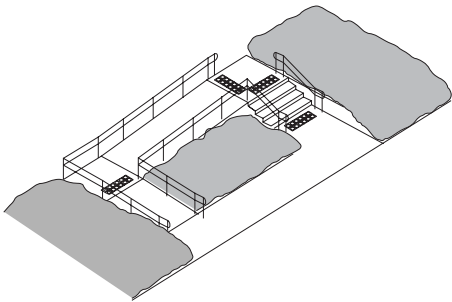
|              | 配慮すること                                                                                                                                                                                                                 | イメージ図等                                                                                                                                                                                                    |
|--------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 歩車道の境界       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚障害者の歩行の安全性を確保するため（歩道と車道とを区別するため）、歩車道境界部の縁端の段差は2 cmを標準とする。</li> <li>・歩道と車道は、緩やかなこう配ですりつける。</li> </ul>                                                                         |  <p>縁端の段差 2 cm</p> <p>車道側</p> <p>歩車道境界部の段差の例</p>                                                                        |
| 平坦性の確保       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・駐車場がある場合等で、歩道に車が乗り入れる場合でも、歩行者にとっての通行のしやすさを考慮し、歩道が連続して平坦となるような構造とする。</li> <li>・排水のためのこう配（横断こう配）によって、車いすが大きく横に傾くことがないよう十分に配慮する。</li> </ul>                                       |  <p>歩道等における歩行者等の通行部分<br/>(可能な限り広く確保)</p> <p>(民地)</p> <p>(歩道)</p> <p>横断こう配<br/>1%以下</p> <p>(車道)</p> <p>セミフラット構造の場合の例</p> |
| 路面の仕上げ等      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・歩行者のスリップや転倒を防ぐため、舗装面は平坦で滑りにくく水はけのよい仕上げとする。</li> <li>・歩道に設ける排水溝の蓋は、車いすの車輪、杖等が落ち込まない形状とする。</li> <li>・路面にある段差は、車いす使用者にとっては移動を困難にし、視覚障害者や歩行障害者にとってはつまずきの原因となるため十分に配慮する。</li> </ul> |  <p>10mm程度</p> <p>細目のグレーチング</p>                                                                                      |
| 視覚障害者誘導用ブロック | <ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚障害者の歩行が多い道路、駅等と視覚障害者の利用が多い施設を結ぶ道路等には、視覚障害者誘導用ブロックを設置する。</li> <li>・視覚障害者誘導用ブロックの色は、原則として黄色とする。やむを得ない場合でも、歩道の舗装面の色とコントラストがあるものを使用する。</li> </ul>                                |  <p>連続して設置</p>                                                                                                        |

#### 4-1-4. 公園の配慮事項

##### 基本的な考え方

- 歩道等の整備と連携を図りながら、公園へ行きやすい環境づくりをすすめる。
- 高齢者や障害者、子ども等の利用に配慮した整備・改善に努め、多くの人が交流できる公園づくりをすすめる。

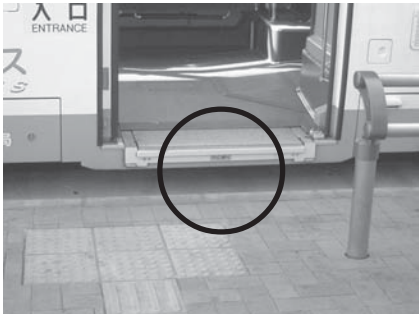
##### 個別の配慮事項

|         | 配慮すること                                                                                                                                                                                                                                                                                  | イメージ図等                                                                                                   |
|---------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| アプローチ空間 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・道路（歩道）から公園出入口に至る経路上の段差を解消する。</li> <li>・出入口の幅は、車いす使用者等も通行しやすいよう、車止めの柵を設ける場合でも十分な幅を確保する。</li> <li>・車止めの柵の前後には、水平部を設ける。</li> <li>・駐車場を整備する場合は、公園出入口付近に車いす使用者等が優先的に利用できる駐車場（幅：350cm程度）を設ける。</li> <li>・駐車場から公園出入口まで安全に通行できるよう、位置や通路に配慮する。</li> </ul> |  <p>公園の出入口</p>        |
| 園路      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・主要な園路は、地形的な条件や管理状況等を考慮しながら、高齢者や障害者等が支障なく通行できるように、有効幅員や舗装面の仕上げ等に配慮する。</li> <li>・主要な園路にやむを得ず段差が生じる場合は、適切な勾配のスロープを設ける。</li> </ul>                                                                                                                  |  <p>階段に併設されたスロープ</p> |

#### 4-1-5. 移動支援システムの配慮事項

##### 基本的な考え方

- だれもが安全かつ快適に移動できるよう、徒歩、自転車、自動車、バス、電車等様々な移動手段を充実させる。
- 町内の主要な施設と住宅地を結ぶコミュニティバスの導入を促進し、だれもが移動しやすい環境づくりをすすめる。

|          | 配慮すること                                                                                                                                                                                    | イメージ図等                                                                                                 |
|----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| コミュニティバス | <ul style="list-style-type: none"> <li>・交通弱者をはじめとする住民の利便性の向上を図るため、コミュニティバスの導入を検討する。</li> <li>・すべての人が様々な目的で利用できるよう柔軟な運営方法や運行ルートの検討を行う。</li> <li>・コミュニティバスを導入するにあたっては低床バスを基本とする。</li> </ul> |  <p>ノンステップバスの例</p>  |
|          |                                                                                                                                                                                           |  <p>ワンステップバスの例</p> |
|          |                                                                                                                                                                                           |  <p>海外の小型バスの例</p>  |

## 4-2.ひとにやさしい福祉のまちづくりのソフトな取り組みに関する配慮事項

ひとにやさしい福祉のまちづくりをすすめるにあたり、ソフトな取り組みに関する配慮事項を次のように定める。

### 基本的な考え方

- 住民、事業者、行政がひとにやさしい福祉のまちづくりの考え方を理解し、まちづくりやものづくり、社会の仕組みづくりに取り組むよう住民に意識の浸透を図る。
- すべての人を尊重する意識を育み、それを実践する教育をすすめる。
- ひとにやさしい福祉のまちづくりに関する人材育成をすすめるとともに、関係団体の活動を支援する。
- ひとにやさしい福祉のまちづくりに関わる情報の共有化を図る。

### 個別の配慮事項

| 個別の配慮事項                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                        | 配慮すること                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| ひとにやさしい福祉のまちづくりの考え方の普及 | <ul style="list-style-type: none"><li>・インターネットや広報など様々な情報手段を通じ、ひとにやさしい福祉のまちづくりの考え方や町内外の取り組みの紹介等をすすめ、バリアフリー環境の必要性など住民意識の向上を図る。</li><li>・学校教育においては、様々な人との交流の機会を通じて、個性や違いを理解する心や思いやりの心を育む。</li><li>・住民一人ひとりがひとにやさしい福祉のまちづくりの担い手として自覚し、できることから取り組むよう、住民参加を促進する。</li><li>・歩道上の違法駐車解消など住民一人ひとりの意識の向上により、バリアフリー環境の維持・保全に努める。</li><li>・声かけや手助けなど、住民の助け合いの気持ちにより物理的な障壁を解消する。</li><li>・福祉型トイレが整備された施設や車いす使用者に配慮された駐車場、店舗の整備状況等に関する情報を集約し、関係団体等と連携して情報の共有化を図る。</li></ul> |

## 5. ひとにやさしい福祉のまちづくりの整備のすすめ方

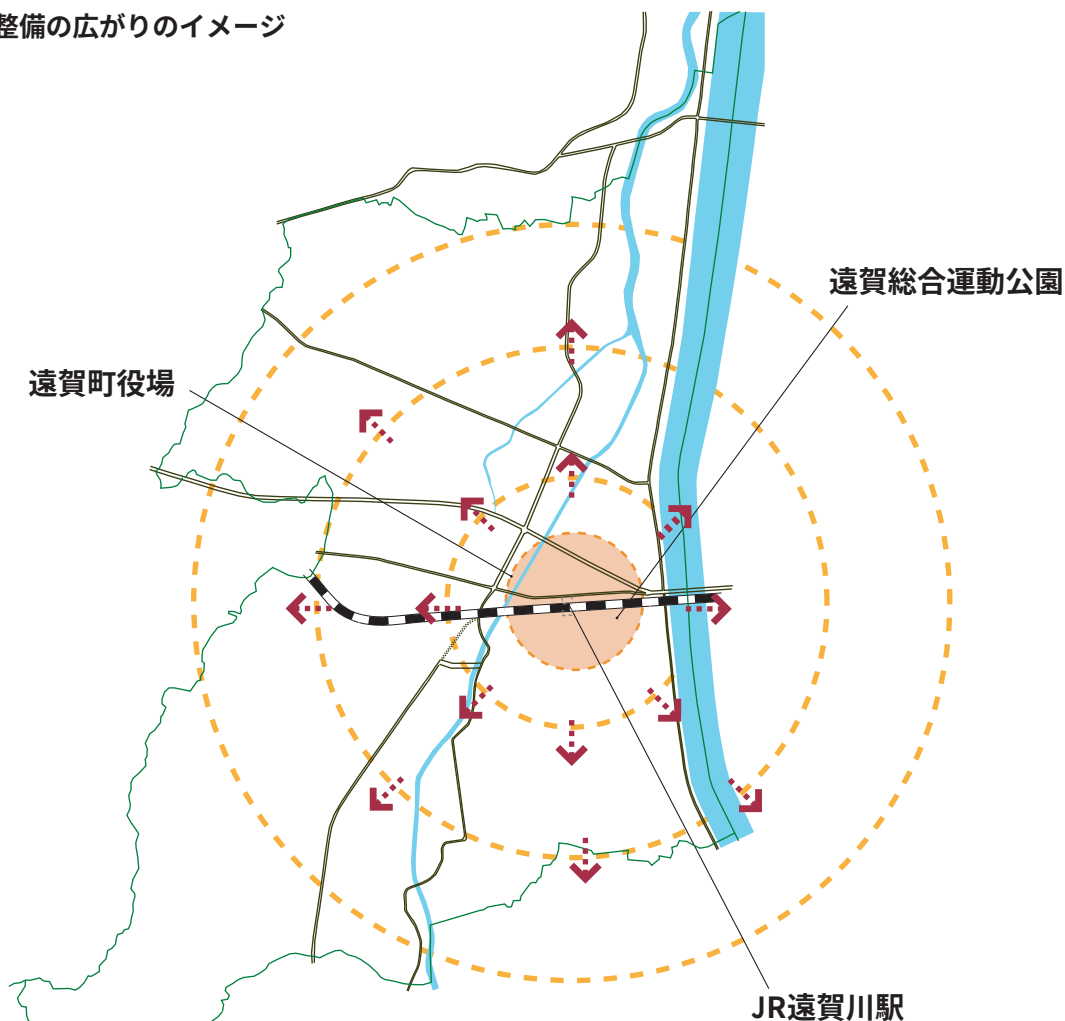
### 5-1. 整備の広がり

ひとにやさしい福祉のまちづくりは、基本理念と基本方針に基づき、今後全町的に着実に取り組むべきである。

しかし、バリアフリー化を中心とした施設整備については、現在のような経済状況等が厳しい中では、全町を同時に一律的に整備していくことは現実的には困難であり、また、即効的な効果は得られにくい面がある。整備をすすめるにあたっては、人口の集中度や高齢者、障害者等の外出状況、都市構造の現況等を踏まえ、整備によっていかにより多くの人がその効果を享受できるかが重要となる。

従って、不特定多数の住民が利用するJR遠賀川駅や町役場、総合運動公園等を含む町の中心的なエリアから総合的な整備をすすめる。また、周辺のエリアについてはバリアフリー点検結果等をふまえ、増改築の際または、住民ニーズ等を勘案しながら、必要事項について改善を順次すすめるものとする。

#### ■整備の広がりイメージ



## 5-2. 整備のネットワーク

町の中心的なエリアについては整備の即効性、実効性を考慮しながら「点から線、線から面」への広がりを意識した連携性のある取り組みを行う。

また、中心的なエリアの整備効果を高めるため、住宅地と中心的なエリアを結ぶ移動支援システムを充実させる。

### ■整備のネットワークのイメージ



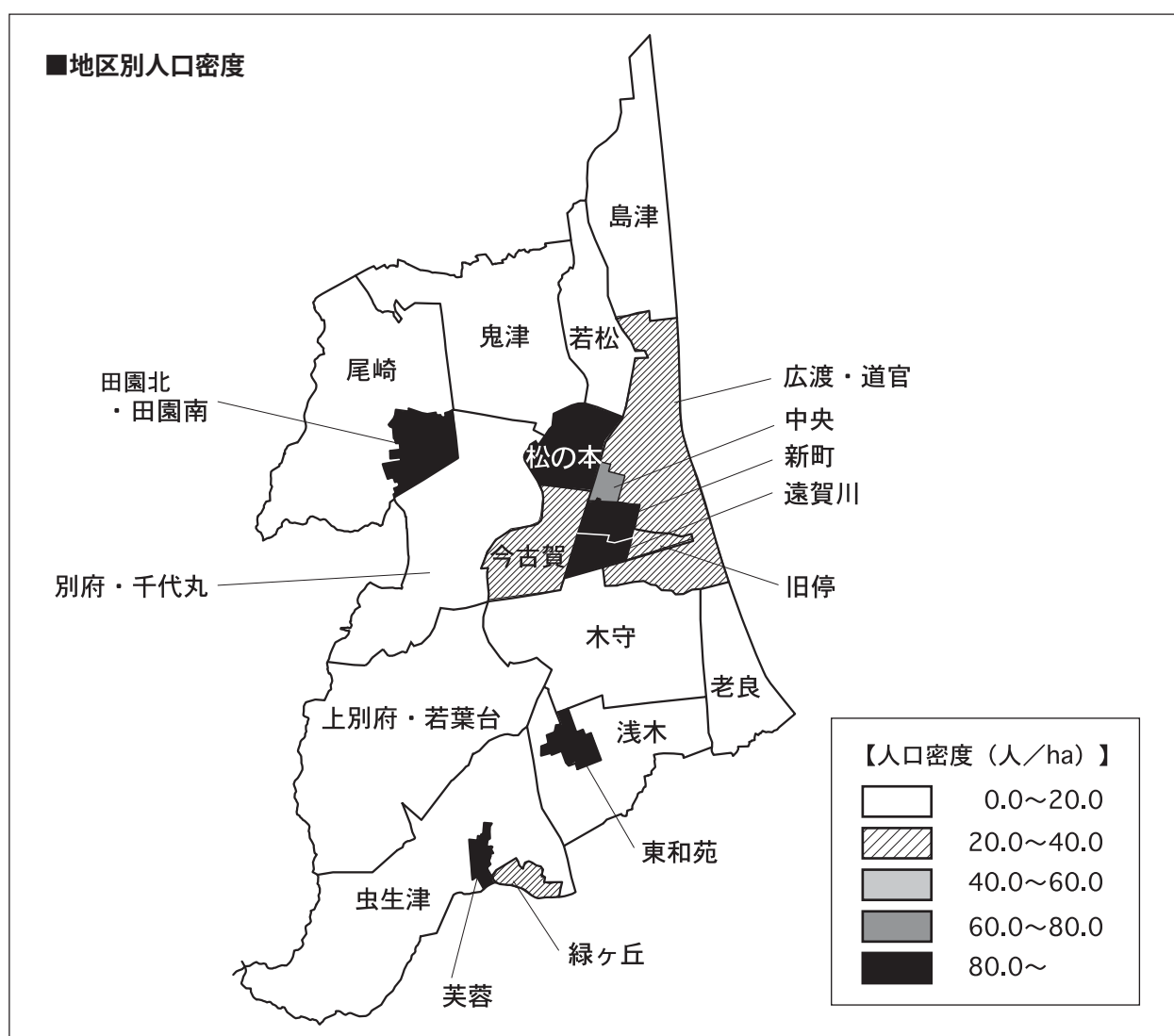
## 6．モデル整備地区の整備計画

### 6-1. モデル整備地区の設定

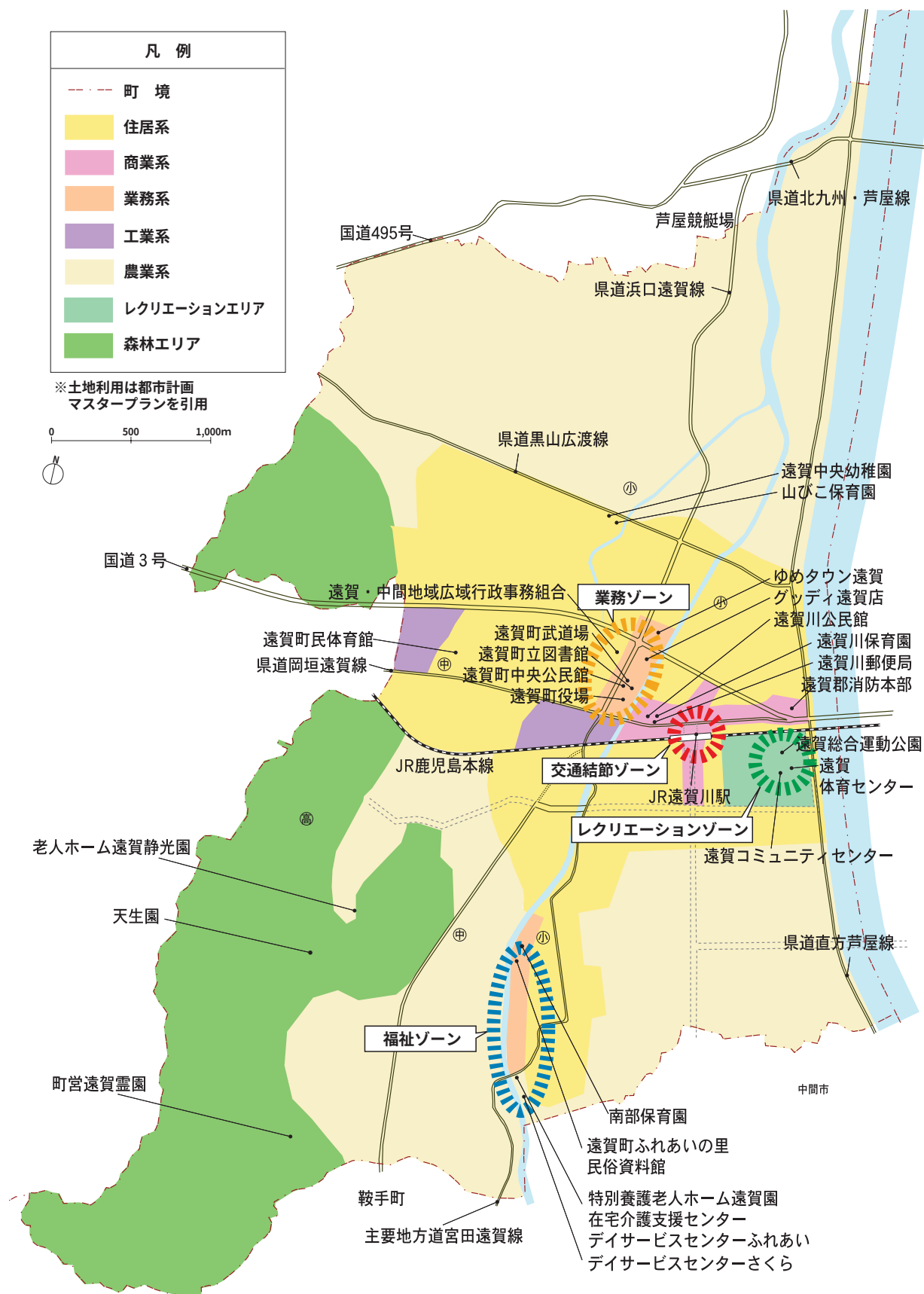
遠賀町におけるひとにやさしい福祉のまちづくりの実現を図るためのモデル整備地区の選定には、遠賀町の都市構造、整備の効果や効率性、緊急性等から以下の設定方針に基づいた検討を行う必要がある。

#### 【選定の配慮項目】

- 人口が集中している地区であること。
- 高齢者や障害者等の通行や施設の利用等が日常的に多いこと。
- 主要な公共的施設や、高齢者や障害者等の日常生活上必要な施設が立地していること。
- JR 駅やバス停等がある移動ネットワーク上の主要な交通拠点であること。
- 再開発事業や区画整理事業等の新しいまちづくりに関する計画があり、ひとにやさしい福祉のまちづくりの整備との連携が必要であること。



## ■主要な施設の位置とゾーニング



■各ゾーンの特徴・比較

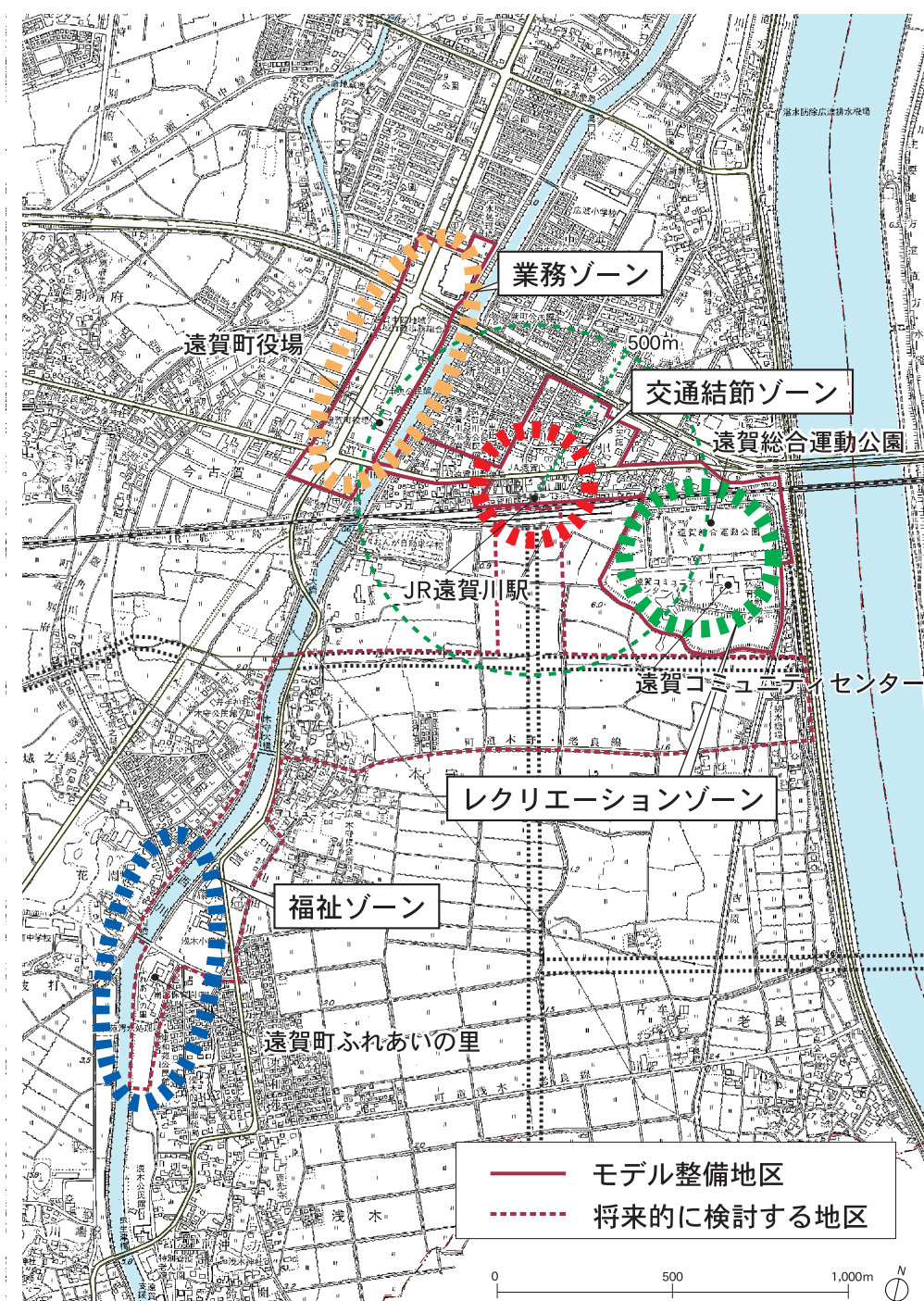
| ゾーンの名称  | 主要な施設                                                                                                                     | 行きやすさ・利用しやすさ                                                                                                                                                                                                                                                          | 総合評価（整備の必要性等）                                                                                                                                                                            |
|---------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 業務ゾーン   | <p>遠賀町役場<br/>遠賀町中央公民館<br/>遠賀町立図書館<br/>遠賀町武道場<br/>遠賀・中間地域広域行政事務組合<br/>遠賀川郵便局<br/>遠賀川公民館</p> <p>大型商業施設<br/>金融機関<br/>飲食店</p> | <p>【行きやすさ】</p> <p>○路線バス沿線となっており、他のゾーンと比較して行きやすい条件にある。</p> <p>※上下 169 本 / 日<br/>1 時間に上下それぞれ 5 ～ 6 本程度</p> <p>○周辺には、ほぼ歩道が整備されている。ただし、部分的に幅員が狭い箇所、歩道への乗り上げ駐車があるなど、歩きにくい箇所がある。</p> <p>【利用しやすさ】</p> <p>○比較的新しい施設以外は、バリアフリー化の取り組みが十分でない。</p> <p>※人のサービスで補完しているものと考えられる。</p> | <p>◆最寄り駅である J R 遠賀川駅から、バス利用でも徒歩でも安全で快適に移動できる環境づくりが望まれる。</p> <p>◆不特定多数の住民が利用するゾーンであることから、歩道については、車いす使用者や視覚障害者、ベビーカー利用等に配慮した整備が望まれる。</p>                                                   |
| 交通結節ゾーン | <p>J R 遠賀川駅<br/>西鉄バス発着点</p> <p>駅前広場</p> <p>金融機関<br/>駅前の商業店舗</p>                                                           | <p>【行きやすさ】</p> <p>○路線バスの発着点となっている。</p> <p>○周辺の道路には歩道が整備されていないところがある。また、歩道幅が十分でないところがある。</p> <p>○朝夕は通勤・通学等で駅前が混雑することがある。</p> <p>【利用しやすさ】</p> <p>○ J R 遠賀川駅のバリアフリー化が十分でない箇所がある。</p> <p>○駅前広場では、自動車と歩行者の動線が交錯するところがある。</p>                                               | <p>◆不特定多数の住民が利用するゾーンであることから、歩道が設置されていない区間については、何らかの対処が必要である。</p> <p>また、車いす使用者や視覚障害者、ベビーカー利用等に配慮した整備が望まれる。</p> <p>◆駅前広場の改修を計画していることから、その計画と合わせた、周辺の歩道や公共交通機関の施設とのつながりのあるバリアフリー化が望まれる。</p> |

| ゾーンの<br>名称                                          | 主要な施設                                                                                           | 行きやすさ・利用しやすさ                                                                                                                                                                                                                                          | 総合評価（整備の必要性等）                                                                                                                                                               |
|-----------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| レ<br>ク<br>リ<br>エ<br>ー<br>シ<br>ョ<br>ン<br>ゾ<br>ー<br>ン | <p>遠賀総合運動公園</p> <p>遠賀コミュニティセンター<br/>遠賀体育センター</p>                                                | <p>【行きやすさ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○路線バスはない。</li> <li>○ＪＲ遠賀川駅からさほど距離はないが、歩道が連続していないところがある。</li> </ul> <p>【利用しやすさ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○車いす使用者や視覚障害者、ベビーカー利用等への対応が十分でない。</li> </ul>                          | <p>◆不特定多数の住民が利用するゾーンであることから、自動車利用及び最寄り駅であるＪＲ遠賀川駅からの歩きやすさ、それぞれを高める必要がある。</p>                                                                                                 |
| 福<br>祉<br>ゾ<br>ー<br>ン                               | <p>遠賀町ふれあいの里<br/>民俗資料館</p> <p>特別養護老人ホーム<br/>在宅介護支援センター<br/>デイサービスセンターふれあい<br/>デイサービスセンターさくら</p> | <p>【行きやすさ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○少し距離があるが、路線バスが走っている。</li> </ul> <p>※上下 56 本 / 日<br/>1 時間に上下それぞれ 2 本程度</p> <p>【利用しやすさ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○施設のバリアフリー化は取り組まれているが、地盤の沈下により、建設後に段差が生じているところがある。</li> </ul> | <p>◆遠賀町ふれあいの里は住民の交流・学習等の拠点であることから、広く住民が行きやすく・利用しやすいアクセス環境を整える必要がある。</p> <p>◆ただし、町の南部に位置しており、他のゾーンとのつながりは薄い。</p> <p>◆特養、デイサービスの利用者は他の施設よりも限定される。また、自動車や送迎サービスによる移動が主である。</p> |

【選定の配慮項目】に基づき、本計画では町内外からの不特定多数の往来が多く、町役場や総合運動公園などの主要な公共的施設が多く立地しているJR遠賀川駅を中心としたエリアをモデル整備地区として位置づけ、整備基本計画を策定する。

一方で、JR遠賀川駅以南の線路から遠賀町ふれあいの里までのエリアについても、福祉関連施設が集中するゾーンとしてバリアフリーに配慮した整備が求められるが、駅南地区の開発計画が模索されており、将来的に検討する地区として位置づける。

## ■モデル整備地区の範囲



## 6-2. モデル整備地区の整備目標・整備方針

地区の現況と課題を踏まえ、モデル整備地区における整備目標を以下のとおりに設定する。

### 整備目標

**目標1：だれもが出入りでき安心して利用できる施設づくり**

**目標2：安全で快適な移動を支援する**

**駅・駅前広場・移動ネットワークづくり**

### 整備方針

#### ●建築物

- ・だれもが円滑に出入りできるよう、敷地内の通路や特に建物出入口まわりの段差解消をすすめる。
- ・公共性の高い施設や利用者の多い民間建築物では、だれもが施設内を容易に移動し、設備を安心して利用できるよう、階段やエレベーター、福祉型トイレ等の改善・整備をすすめる。

#### ●交通機関の施設

- ・施設出入口から改札口、ホームに至る経路について、連続してだれもが容易に移動できるよう、施設出入口、階段やエレベーター等の改善・整備をすすめる。
- ・だれもが安心して利用できるよう、福祉型トイレや案内サイン等の充実を図る。

#### ●道路

- ・主要な施設間を結ぶ安全で快適なルートを確保する。
- ・通行しやすい歩道を維持するため、看板や路上駐車等の障害の解消、及び視覚障害者誘導用ブロックの適切な改善及び維持管理に努める。
- ・駅への送迎や通勤・通学など、様々な目的で駅に集まるすべての人が、安全かつ快適に施設を利用できるよう、駅前広場の整備をすすめる。

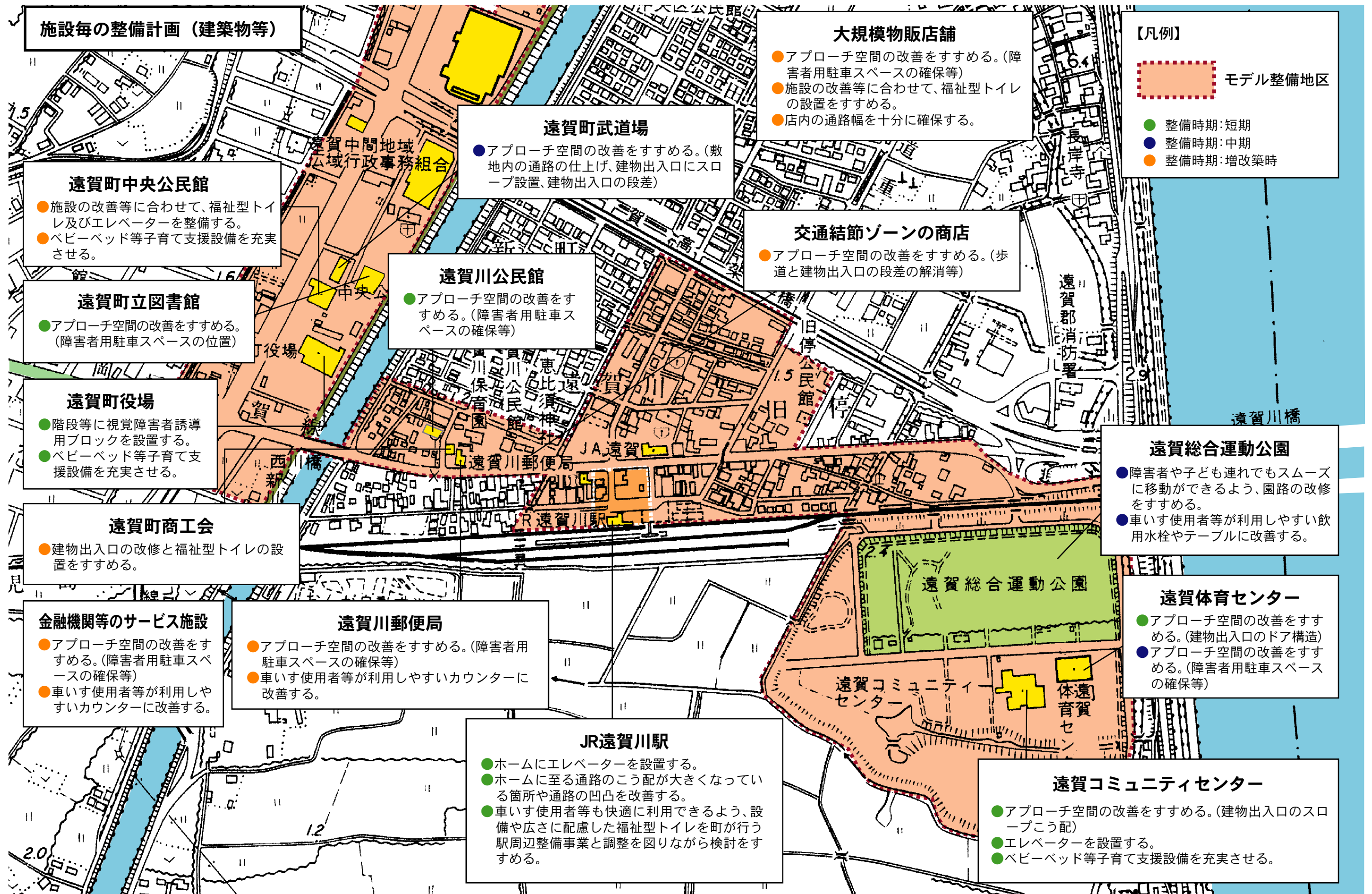
#### ●公園

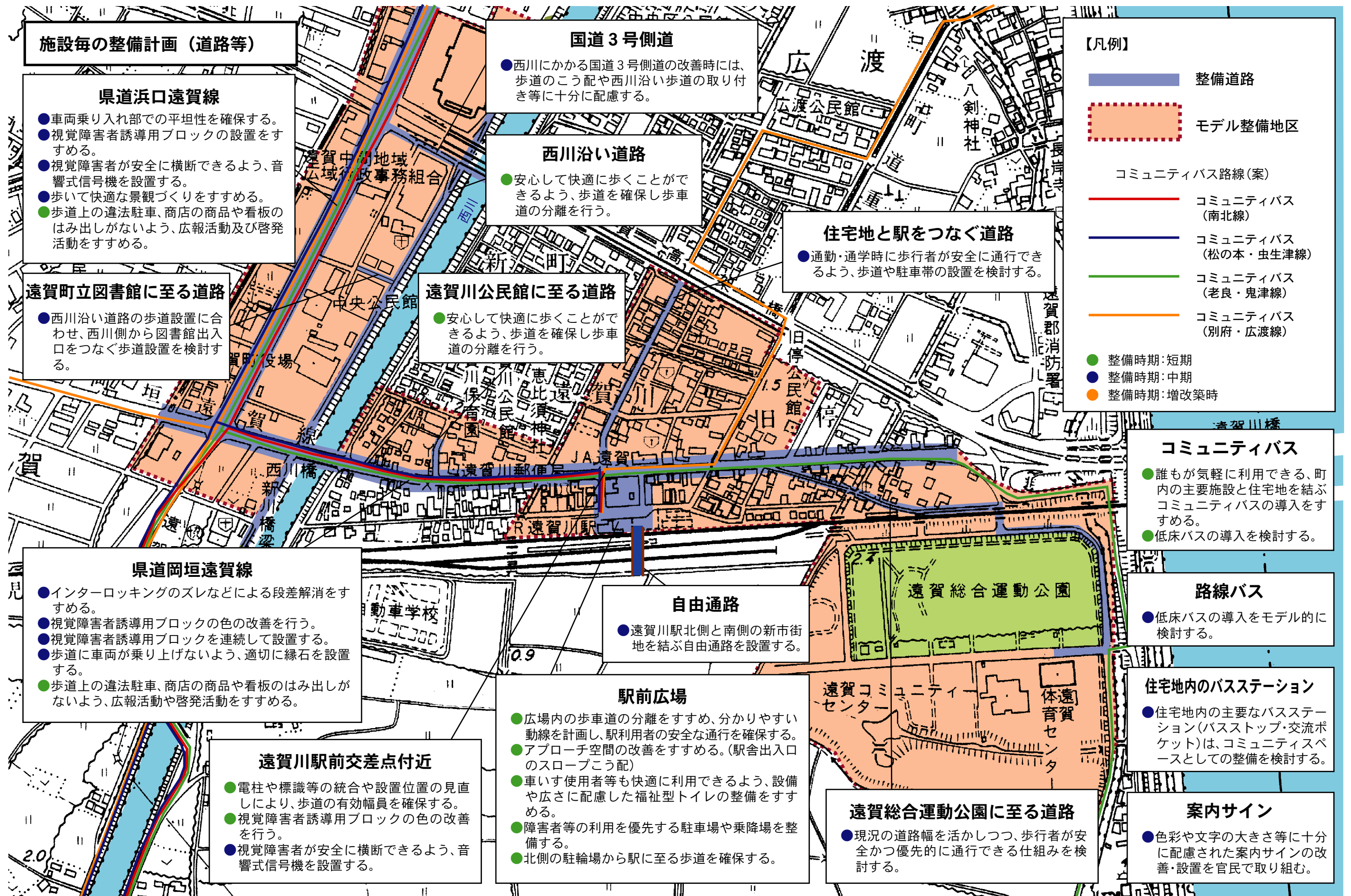
- ・だれもが快適に利用できるよう、出入口、案内サイン、トイレ等の改善・整備をすすめる。
- ・少子・高齢社会に対応した公園への見直しをすすめ、幅広い利用者を想定した設備の充実を図る。

#### ●移動支援システム

- ・子どもや高齢者、障害者等がより安全で快適に移動できるよう、町内の主要施設と住宅地を結ぶコミュニティバスの導入を検討する。

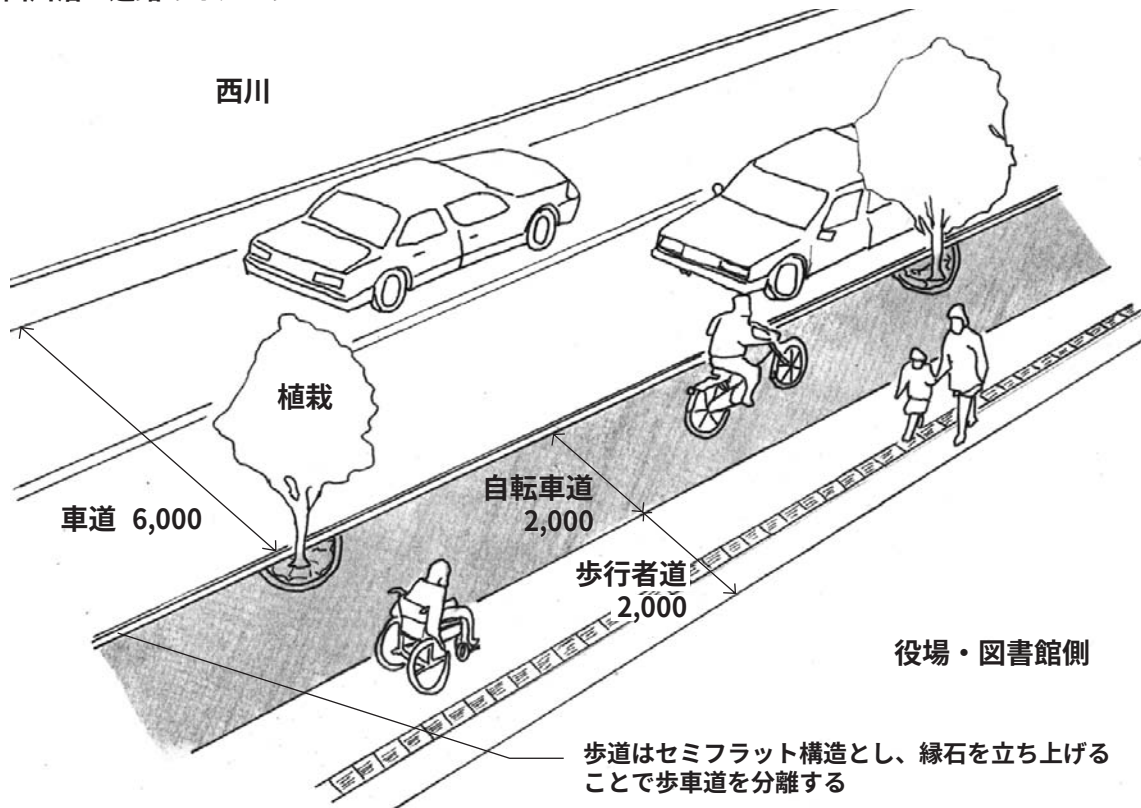
6-3.モデル整備地区の整備計画



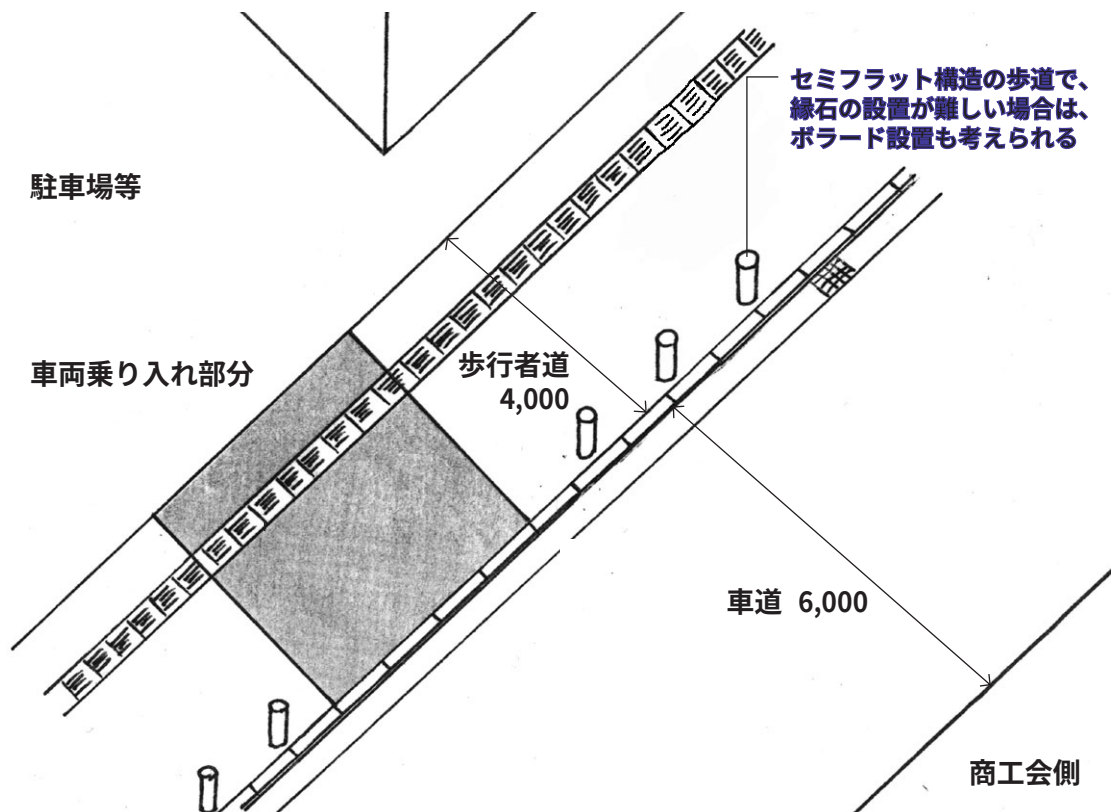


## 整備イメージ

### ■西川沿い道路のイメージ

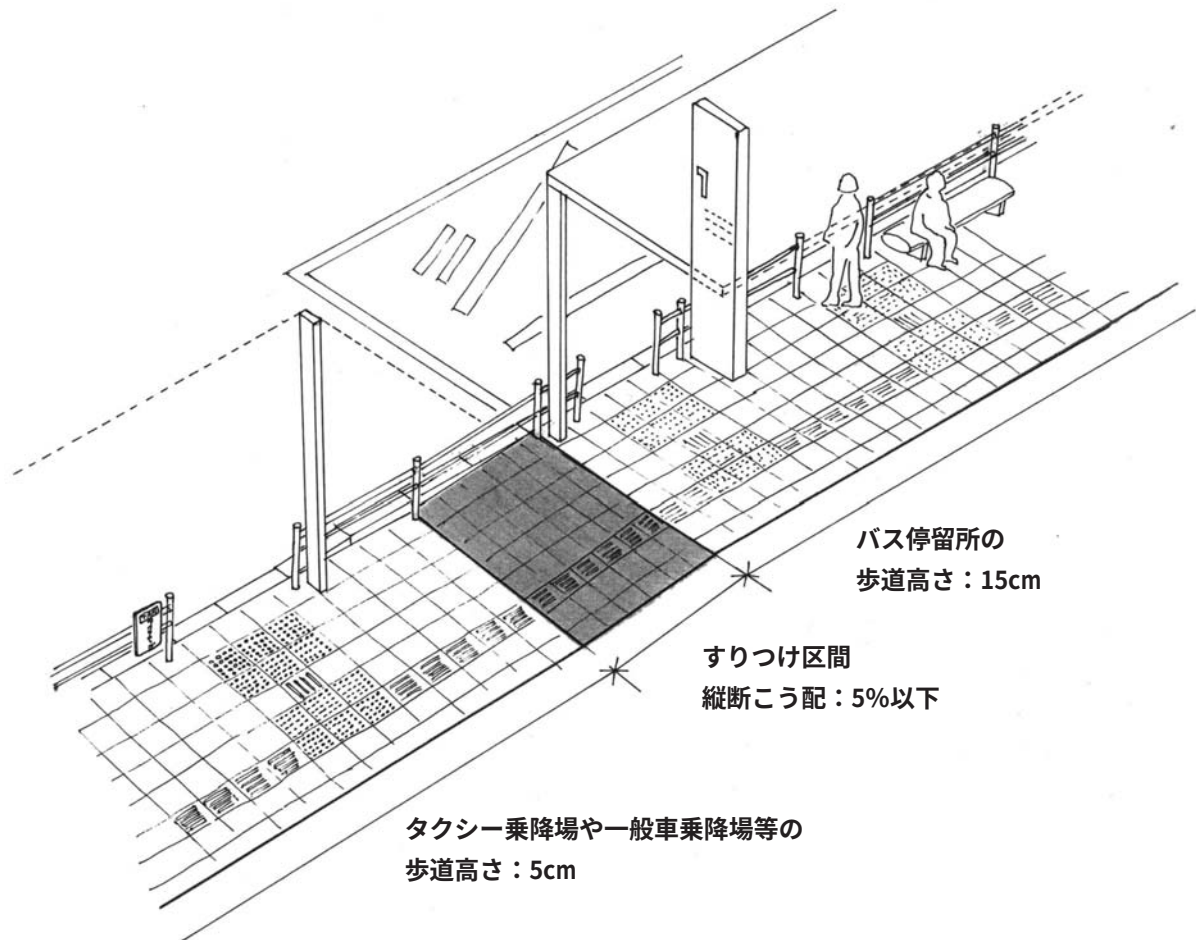


### ■遠賀川公民館に至る道路のイメージ

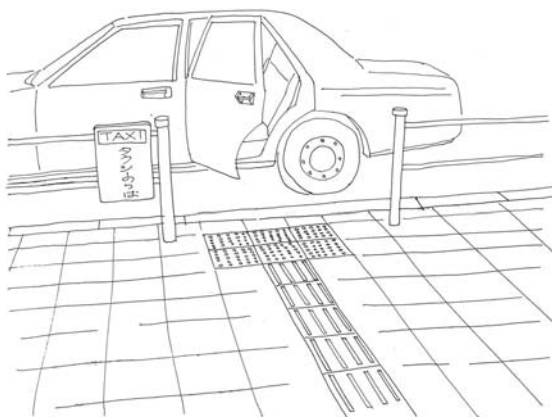


## 整備イメージ

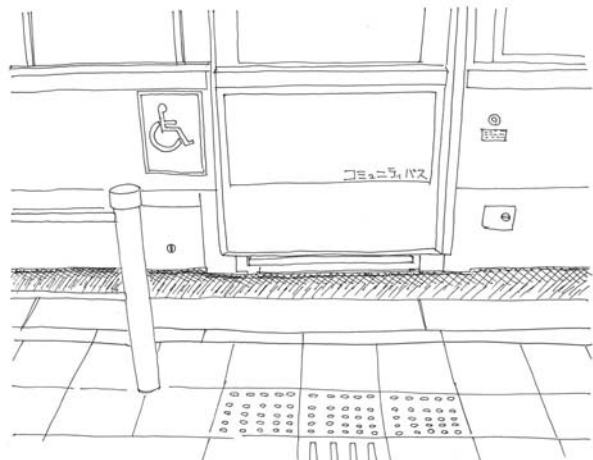
### ■駅前広場のバス及びタクシー乗り場のイメージ



【タクシー】



【バス】



## 7. 計画の実現に向けて

ひとにやさしい福祉のまちづくりを今後着実にすすめるためには、住民、事業者、行政がそれぞれの役割を自覚し、できることから行動していくことが重要となる。また、モデル整備地区の整備にあたっては、公共交通事業者や道路管理者、公安委員会等と連携を図りながら、効率的、効果的に整備をすすめていくことが必要である。

従って、計画の推進にあたって、以下のような役割をそれぞれが担い、互いに連携しあって取り組むものとする。

### 住民の基本的な役割

#### ○ひとにやさしい福祉のまちづくりについて理解する。

例) ひとにやさしい福祉のまちづくりの考え方について学習し、理解を深める。

#### ○できることから行動する

例) 声かけや挨拶を心がける。

自転車や自動車は、決められた場所に停める。

公園の便所等の設備や歩道の樹木など、皆で共有するものを大切にする。

### 事業者の基本的な役割

#### ○ひとにやさしい福祉のまちづくりについて理解する。

例) ひとにやさしい福祉のまちづくりの考え方について学習し、理解を深める。

#### ○だれにもやさしい施設づくりをすすめる。

例) 施設の整備状況に関わらず、人的サポートを常に心がける。

だれもが安全かつ快適に利用できるよう、施設の適切な維持管理に努める。

新しい施設を計画する時は、だれもが利用しやすい施設づくりを心がける。

### 行政の基本的な役割

#### ○できることから優先順位を定め取り組む。

例) 広報やホームページ等を活用して、ひとにやさしい福祉のまちづくりの考え方を広める。

バリアフリーマップの作成等による情報提供に努める。

住民参加の「点検ワークショップ」等の取り組みを行う。

窓口サービスや施設づくりなど、ソフトとハードの両面から働きかける。

財政状況等とのバランスを図りつつ、必要な箇所を優先的に整備する。

#### ○再評価する体制をつくる。

例) ひとにやさしい福祉のまちづくりについては、今後新たな考え方の確立や技術の革新等により、見直しが求められることも考えられる。そのような社会動向の変化に対応できるよう、整備状況や配慮事項についての評価・検討を行い、再度計画に反映する体制をつくる。

## 参考資料

### 遠賀町ひとにやさしい福祉のまちづくり整備基本計画専門委員会名簿

| 氏 名     | 役 職 等                      |
|---------|----------------------------|
| 竹下 輝和   | 九州大学大学院人間環境学研究院教授          |
| 森 素直    | (社)福岡県建築士事務所協会副会長          |
| 津高 守    | 九州旅客鉄道株式会社施設部企画課担当課長       |
| 土山 修    | 西鉄バス北九州営業課                 |
| 堀 康雄    | 国土交通省九州地方整備局北九州国道事務所交通対策課長 |
| 西田 直人   | 北九州土木事務所道路課長               |
| 渡邊 正隆   | 福岡県折尾警察署交通課交通総務係長          |
| 栗木 喜明   | 身体障害者福祉協議会                 |
| 松尾 幸一   | 老人クラブ連合会会長                 |
| 萩本 悦子   | 地域活動指導員                    |
| 福田 秀實   | 商工会会長                      |
| 善明 康士郎  | 遠賀町福祉課長                    |
| 桒田 英夫   | 遠賀町建設課課長補佐                 |
| 事 務 局   | 遠賀町都市計画課                   |
| 協 力 機 関 | (株)醇建築まちづくり研究所             |

